

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成29年9月11日(月)

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス このこのリーフ秋山

チェック項目		はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		2		スペースが狭いため、交代で外出して対応している。	一軒家のため改築は難しい。交代で外出できる要員を確保していく。
	② 職員の配置数は適切であるか	2			概ね2人に1人のスタッフを確保している。	土曜日等随時のスタッフ募集を行い、働きやすい職場環境を維持していく。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	2			廊下、トイレ、スロープがあり、指導訓練室への移動はバリアフリーになっている。	サッシ等破損する事が多いので、緊急時の避難口としての機能のあるスロープはいつでも使えるように日頃から確認しておく。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		1		PDCAサイクルを理解して実践しようとしているのは管理者のみのようである。	報告書等の書式に評価欄をつけているので、もっとこれを活用して、スタッフの意識を高め向上していく。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	2			夏休み前に保護者に向けてアンケート調査を実施した。	保護者の意向を踏まえて何らかの回答を出す必要がある。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公表しているか		2		まずはアンケート調査その後の集計、公表を実施する。	専用の会報やホームページがないので、集計結果表を直接保護者に手渡し又は郵送する予定である。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		1		管理者でないと答えられない質問のようである。第三者による外部評価は行っていない。	担当者会議や事業所連絡会で得た情報を基に現場に伝達し、業務改善を図っている。
⑧ 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか		2		外部研修がある場合回覧板や掲示してスタッフに知らせている。	内部研修は「虐待防止」を実施してきたが、管理者等の多忙さが解消されないと改善はなかなか難しい。これからも社会資源として外部研修を積極的に案内していく方向である。	
適切な 支援の 提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	2			保護者の思いと子どもの思いがズレていると感じる事もあるが、客観視してあくまで本人を基準に計画作成している。	業務多忙につき多くの計画作成ができていないのが現状。保護者に対して失礼のないよう極力アセスメントにこだわってしっかりと計画作成をしている。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	2			相談支援のアセスメントツールを応用して独自のアセスメントツールを実践している。	独自のアセスメントツールは必要最低限の項目を押さえているものと考えている。改善するはずが業務量が増える事になり、現在は考えていない。AIの活用の動向は今後も追っていく。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	2			土曜日や長期休みを中心にしているが、その日の朝に行っている。フットワークが軽い。	事前の企画書の立案がほとんどない。管理者側から働きかけもなかなか企画書が上がらない。文書化しないと評価、改善に繋がれないのに、現場をひっぱるべきものがその時間を作ってあげる事を軽んじている。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	1	1		その日のスタッフの勤務状況でできる事を決めている。	何を根拠に工夫しているか不明。そのための教材の購入、教材の作成等の報告が全く上がってこない。自分の事で精一杯でスタッフを活用したり育成する姿が見られない。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	1	1		平日、休日、長期休暇に応じて、大まかにどういう時間配分をするかは決めているが、きめ細かいとは言えない。	何を根拠に課題を設定しているか証拠がないので不明。子どもにとっての課題はそれぞれ異なり、それが個別支援である。その事は完全ではないが都度支援計画に反映させている。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	2			子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している。	集団に適さない子どもはその事自体が課題になるが、支援内容を工夫している。将来の強度行動障害の防止の観点、不適切支援とならないように計画の中で配慮している。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		2		スタッフ間の連絡帳を用いてスタッフとの情報共有を図る事に努めている。	土曜日や長期休暇時に朝礼を行っているが、放課後は就業後すぐに学校迎入れを行わなければならない行われていない。
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		1	1	サービス提供記録に記載し、次の個別支援計画書の内容に反映させていくのが基本。急ぎの必要事項がある場合、スタッフ間連絡帳に記す。	自宅に送り届けた後家庭の事情もありすぐに退勤してしまうのでできない。朝礼、スタッフ間連絡帳及び支援計画が情報共有源となっている。
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	2			その日にあった出来事をありのままに記録するようにしている。その記録を基にモニタリングを行い、支援計画を改定している。	個別支援計画の内容を理解せずに支援しているように見えるが、支援計画自体が滞っているため、こちらあまり言う事ができずにいる。
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか		2		サービス提供記録と同一紙面上にモニタリング記載欄を設けている。	業務多忙につき不定期に実施している。もう一人のスタッフは現場の保育士であり、モニタリングを自分の仕事と捉えていない。
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか		1		知識技能の付与や集団活動等その子どもの障害特性に合わせて支援計画を作成している。	基本活動のエッセンスは支援計画の中に取り入れられているつもりである。もう一人のスタッフは多忙でガイドラインを参考ともしないような状況。
⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	2			サービス担当者会議には児発管である私が可能な限り参加している。参加できない時はFAXで返答している。	サービス担当者会議には児発管である私が参加している。もう一人の者は私の代理としての事後も含めて対応能力が認められず、参加させていない。	

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成29年9月11日(月)

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス このこのリーフ秋山

チェック項目		はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑳	2			学校からの連絡会にはできるだけ出席している。送迎遅延等のトラブルは学校に連絡を入れている。	個人情報保護法の見地から、基本的には保護者との契約であり、保護者を窓口連絡に取ってもらう事が多い。保護者をないがしろにする事案でなければ事業所から学校に連絡していく。
	㉑			2	契約に至る前の段階で医療的ケアができない事を保護者に説明している。	医療的ケアを行う事は基準違反の不法行為になり受け入れない。グレーゾーンの場合は保護者、相談支援専門員に医療的ケアにあたらないかどうか確認し、スタッフの力量等を踏まえて判断する。
	㉒			2	契約時に保護者から成育暦をアセスメントしている。それで足りている。	過去に利用していた所は必要に応じて連絡する事もあると考えるが、現時点で必要性を感じない。
	㉓			2	その子どもが今何歳で何年生なのかを気にかけて業務に当たっている。	未だ卒業して障害福祉サービス事業所に移行した該当者がいない。将来的には個人情報に配慮しつつ、相談支援専門員を通して情報提供しようと考えている。
	㉔	2			必要に応じて研修に参加。スタッフにも回覧板を回して外部研修の参加を促している。	児童発達支援センターを利用している子どもが何人かいる。その縁もあり、必要に応じて連絡を取り合っている。連絡相手は相談支援専門員か管理者の方がほとんど。
	㉕		1	1	公園等の公共の場で交流する機会が持てるようにしている。	障害を持っていない子の親の障害児に対する理解が得られない事が多い。関わりあいを快しとせず、スタッフ共々肩身の狭い思いをさせられてしまう。
	㉖			2	呼ばれた時は参加している。	地域自立支援協議会等の会議の地域の老人福祉等テーマと沿わない事が多いと考えられる。
	㉗	2			主に送迎時の立ち話と連絡帳の交換により共通理解を図っている。	共通理解している事をなるべく活かして個別支援計画書の内容に盛り込むようにしている。そこで保護者とズレが生じた場合は必要に応じて調整する。
	㉘			2	ペアレント・トレーニングは行っていない。随時、主に電話が多いが、相談支援を行っている。	障害の捉え方、支援の仕方の助言、保護者自身の精神的負担の軽減を目指した社会的資源の活用等保護者が一人で悩まないようにしている。保護者がいつでも電話できる関係性を維持する。
保護者への説明責任等	㉙	2			契約時の重要事項の説明として行っている。	支援の内容については個別支援計画の更新とリンクして説明責任があると考えている。利用者負担額の変更等がある場合は、連絡帳、電話、送迎時の対話を通して個々に説明していく。全員に関わる重要事項は文書で利用者にお知らせする。
	㉚	2			相談に乗った事項で事業所にとっても必要な事項であった場合、個別支援計画書に反映させる。	障害児を持つ保護者にとって、当事業所利用者の場合は一番身近に相談にのってもらえる相手が私達であるという意識を持って取り組んでいる。
	㉛			2	個人情報の問題があるので原則として行わないが、保護者から要望があった場合は仲介して対応している。	近くに駐車場がなく、近隣住民に迷惑となってしまうので保護者会を開催していない。就労している母親も多くいて、事業所として保護者会の開催をそれほど期待されていない。
	㉜	2			重要事項説明書の中に苦情相談窓口の記載がある。契約時に苦情対応方法を説明している。	苦情やトラブルがあった場合はすぐに対応している。対応した時に今後事業所としてどうしていくのかを説明している。苦情なのか注文なのかを判断して、連絡帳等に記載したり、文書として証拠が残るようにしている。
	㉝			2	保護者が判断を誤らないように今後の見通し等必要事項を前もって随時文書で知らせるようにしている。	定期的な会報はない。保護者にとって必要と判断される情報は随時文書でお知らせしている。個人的な情報は連絡帳に記載している。
	㉞	2			電話での通話、FAX送信時等常に個人情報へ配慮を念頭に業務に当たっている。	スタッフは今の時代当然だと考えているようだが、周知徹底が行われているとは言えない。社内研修の中に折り込む等工夫が必要と考えている。
	㉟			2	絵カード、ジェスチャー、単語等でのコミュニケーションを行っている。	日常的に、体系的に絵カード等による支援をルーチン化しているとは言えない。しかし、その事自体に起因して不適切支援となっている要素はそれ程多くなく、検討が必要。
	㊱			2	避難訓練を行う際に地域の学校と連携を行った。保護者の参加もあった。	とても行事の運営と招待を行えるレベルにないと判断する。地域の学校の文化祭にこちらから出向くので精一杯。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成29年9月11日(月)

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス このこのリーフ秋山

	チェック項目	はい		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		どちらとも いえない	いいえ		
非常時等の対応	③⑧ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか			2 何らかの資料や根拠があり、折に触れてスタッフに情報提供するようにしている。	緊急時、防犯、感染症のマニュアル自体がない。このような事態の時は管理者の判断によるところが大きい。その辺も整理していきたい。
	③⑨ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		2	過去に避難訓練を実施した事がある。これをベースにして訓練に臨む事ができる。	避難先の学校の玄関が避難先となっているため、生徒が自転車で突っ込んでくると危険である等の受け入れの調整ある。当事業所の人員体制の問題もある。諸事情を総合的に考えて避難訓練を実施しなければならず、なかなか定期的に行えないのが実情である。
	④⑩ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		2	1月に3回曜日を変えて自宅送り後の時間に研修を行っている。	職員の研修機会を確保したつもりであったが、午前中等の別の時間帯に研修を望む声も多かった。今後は可能な限りこの声に応えていきたいと考えている。
	④⑪ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		2	社内の虐待防止研修に身体拘束についてスタッフに研修を行った。	身体拘束を行う場面に至っていない。従って、個別支援計画への記載も要さない。そのような場面に至る場合、事業所の能力として利用中止にならざるを得ないものと考えている。
	④⑫ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		1	情けない事だが管理者でないと答えられない質問のようである。理解不足の非常勤スタッフを考慮して、食事等は持参をお願いしている。	食物アレルギーは保護者からの情報に基づいて対応している。医師の指示書がある場合、参考資料として保護者への提出を求めている。アレルギー防止のため保護者に弁当持参の依頼し、緊急時の対応について支援計画に記載している。当然契約時に共通理解を図っている。
④⑬ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		2	ヒヤリハット等の報告書は回覧後、ファイリングしている。報告書には管理者のコメントを記載して今後役に立つようにしている。	事例集と言えは言えるが、ファイリングしたまま放置され、スタッフが振り返って活用した場面を見た事がない。報告書を自発的に記載するスタッフが少ない。管理者が言っても報告書が上がってこない状況にある。	